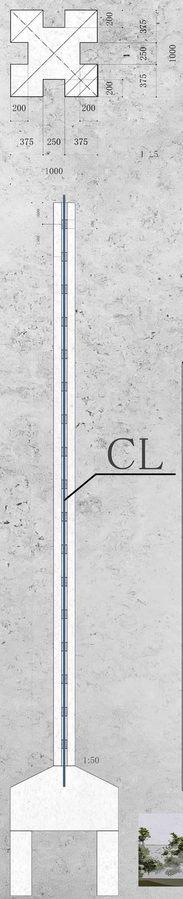
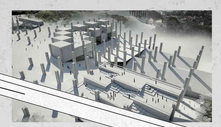
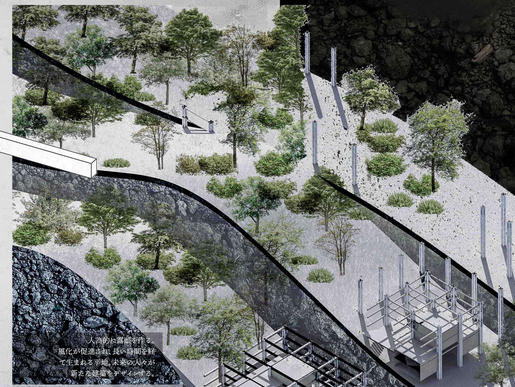
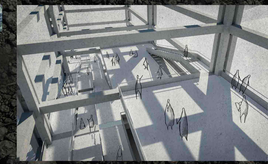
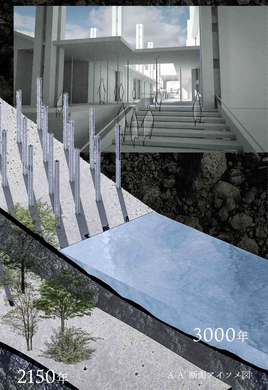
化石化

確定要素として与えられたGLという概念の破壊と、それに代わる新たな基準を構想する。
都市に蹂躙され、忘れ去られたGLの可塑性に目を向ける。



途方もない年月に耐えることのできる材料が必要である。柱には、炭酸化コンクリートを使用する。
中国・西安市郊外にある約5000年前の大地湾遺跡から発掘された古代コンクリートは、炭酸化反応により耐久性を保持していた。これを応用した、コンクリート表面とCO2との反応により作られた、推定寿命1万年という驚異的な耐久性を持つ炭酸化コンクリートが開発されている。



本牧に遺された土地記憶の一つに、街のグリッドが存在する。これを踏襲することは、次世代に歴史を引き継ぐ意味合いを持つ。
プライベートスペースや人の背丈は、どれだけ時代が経っても大きく変わらない。つまり、現代の一単位の建築スケールは、数千年にわたって通用するのではないか。
またグリッドは、人間の生きた痕跡として保存される。
xy方向でのグリッドは、時代共に移り行くz軸、すなわちGLに代わる基準となる。
場所性や人口の変化に合わせ、単位数を柔軟に変更できる柱をデザインした。

大地ノ記憶　現代（2030年）　南側立面図　S: 1/2000